

東京国立 博物館 ニュース

第681号
展示と催し物
案内



2-3 ◎ 特別展「マーオリ―楽園の神々―」

4 ◎ 特別展「悠久の美 中国国家博物館名品展」

5 ◎ 特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ―天才の実像―」

6 ◎ 特集陳列「下絵―悩める絵師たちの軌跡―」

平常展見どころ案内2007年2月・3月

7-11 ◎ 重文 色絵月梅図茶壺／特集陳列 歌舞伎衣裳「道成寺と桜」／

特集陳列「お雛様と人形」／特集陳列「インドの染織」／

特集陳列「抵抗と恭順―明末清初の書人たち―」／

国宝 風信帖／重文 浜松図屏風／富嶽三十六景 凱風快晴

12-13 ◎ ようこそ! 博物館の舞台裏へ
展示のしごと

14 ◎ INFORMATION

15 ◎ TOPICS

16 ◎ 2007年2月・3月の展示・催し物

2007

23

月号



ニュージーランド国立博物館 テ・パパ・トンガレワ名品展

マーオリ 楽園の神々

マーオリのマウリ(精神の力)がこめられた神秘の石から2種類の音を奏でる不思議な笛まで。

マーオリ展では、「楽園」を体感するための仕掛けがもりたくさん。

今回は、マーオリの不思議ワールドを楽しむコツを伝授しましょう。

ボウナム(軟玉)タッチストーン
これだけは、ぜひ手を触れてください

一月に始まったマーオリ展は、会場入り口にボウナム(軟玉)タッチストーンを展示しています。ニュージーランド南島で産出する緑色の美しい宝石ボウナムは、硬くて工具としてもすぐれ、マーオリの精神的なよりどころにもなっています。そこにこめられたマウリ(精神の力)は、展覧会の要として、会場とニュージーランドを結び合せています。マーオリ展では、この作品だけ手を触れることができます。というよりも、ぜひともこのボウナムに触れて、あなた自身のマウリとマーオリの世界を結び付けてください。

マーオリ人が貴重品を入れたワカ・ファイアやパパ・ホウ(宝箱)は、箱の底にまで細かい彫刻が施されています。これらは机の上に置かれたものではなく、家の垂木からぶら下げたので、下から鑑賞できるようになっているのです。ワカ・ファイアのうちの一点は、頭に飾るためのファイア鳥の尾羽、ヘイ・ツイキ(人間形ペンダント)、ペカウやクル(いづれも耳飾り)、ヘル(櫛)、サメの歯で作った装身具などマーオリ人の宝物を入れた状態で展示しています。これらを身につけ

マーオリのデザインと意味の例

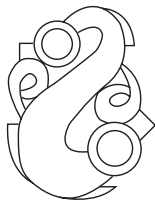
マタウ

(釣り針の形のデザイン)
航海の安全という意味が込められています。
権力とリーダーシップの象徴です



マナイア

威厳や力を表し身を守る魔よけの意味があります。
マーオリ美術によく使われるデザインです



●ワークシート「クジラの島の少女を見たら、展覧会へLet's GO!」

映画「クジラの島の少女」の上映後、特別展の鑑賞のヒントとなるワークシートを小・中・高校生の方々に配布します。

上映予定:
2月6日(火)～9日(金)、11日(日)、12日(月・休)
10:30と14:30の各日2回
上映場所: 平成館1階大講堂
無料(一般の方は当日の入館料が必要です)

ニュージーランド国立博物館
テ・パパ・トンガレワ名品展

マーオリ — 楽園の神々 —

1月23日(火)～3月18日(日)
東京国立博物館 平成館
特別展示室第1・2室

主催: 東京国立博物館
ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレワ

後援: ニュージーランド大使館
ニュージーランド政府観光局

協賛: トヨタ輸送株式会社
トヨフジ海運株式会社

協力: ニュージーランド航空
松下電工株式会社

* 平常料金でご覧いただけます



カフキウィ(キウィの羽のマント)
羽が外側に反り返るように
巧みに編み込んでいます



ワカ・フィア(宝箱)
マーオリ愛蔵の装身具が
納められています



ブートーリノ(2つの音色の笛)
どこから吹くかによって、
音色が違います



るとどんな姿になるのか、想像してみてください。

マーオリの伝統楽器のひとつブートーリノ。この笛は二種類の音色を出すことができます。端の孔から吹くとラッパのような男性的な音、中央の孔から吹くとフルートのような女性的な音を出せるのです。ほかの楽器とともに、会場のオーデオ・ヴィジュアル・プログラムでその音色をお楽しみください。

会場の後半、カフキウィ(キウィの羽のマント)など、さまざまなマントが、まるで誰かがまとっているかのように、会場内に林立しています。テ・パの学芸員たちが私たちに、「まるで先祖が地上に戻ってきて、集っているかのように展示してほしい」と提案したことから、この展示が実現しました。

会場内では、実際の先祖たちの写真もご覧いただけます。マラキハウ(海の怪物)のペンダントなど、ポウナムで作られた装身具もここでは光を透過させ、ひととき美しく展示されています。(白井克也)



マラキハウ(海の怪物)の
ペンダント
想像上の生物が、尾びれを
巻いているところです

■ 関連教育普及事業のお知らせ

マーオリの人びとは、1000年前からニュージーランドに暮らし、先祖や自然を信仰の対象とした独自の文化を発展させてきました。そして万物に神が宿るという彼らの思想は植物や動物の形にもさまざまな意味を見出し、それらはやがて象徴化された形となり、美しい芸術として受け継がれてきました。ガイダンスルーム(平成館1階)では、装飾品、編み物、彫刻などさまざまな展示品に見られるデザインに注目したワークショップを行ない、マーオリ文化の理解につなげるとともに特別展の鑑賞に役立つコーナーを設けています。またマーオリの少女を主人公にした映画の上映も行います。特別展とワークショップ、そして映画。ゆっくり、たっぷり、神々の楽園にひたってください。

● ワークショップ「マーオリのデザイン」

代表的なマーオリのデザインを選び、そこに込められた意味をパネル展示でわかりやすく紹介します。マーオリのデザインとそこに込められた意味が分かると、特別展の展示品をより深く理解することができます。そしてその作品を作ったマーオリの人々の思いも想像することができます。友情や平和といった思いまでも形にしたマーオリのデザイン。こうしたデザインを参考に、人間のさまざまな思いや感情を自分なりにデザイン化してみるワークショップを行なっています。

会期中毎日実施
参加自由 無料(当日の入館料が必要です)
対象: 小・中・高校生 平成館ガイダンスルーム



ヘイ・ツィキ(人間形ペンダント)
先祖や霊的なものを表します

日中国交回復35周年・日本中国文化交流協会創立50周年記念

悠久の美 中国国家博物館名品展

中国古代の悠久の美を厳選して展示する中国国家博物館名品展。

なかでも見逃せない2点をご紹介します。

ぜひ会場に足を運んでじっくりとご鑑賞ください。

古今東西を問わず、人々が愛好してきたのは黄金です。古代中国の人々も黄金を愛好し、黄金を用いた多くの作品を制作しました。ここでは、今回の展覧会で展示される金製品を紹介しましょう。

第一のおすめは金製宝珠首飾です。黄金の板を加工した台に、細かな金粒を熔接し、さらに真珠やラピスラズリなどの色とりどりの宝石をちりばめた華麗な作品です。九歳で亡くなった貴族の少女の墓から出土しました。西方的な趣が強いことから、西アジアで制作されたとする説が有力ですが、西アジア製品を模して中国で作られた可能性も考えられます。

第二のおすめは「滇王之印」金印です。紀元前百年頃、漢の皇帝が

現在の雲南省昆明市一帯を支配していた滇王に授けたものと考えられます。この時代にはまだ紙がなく、印は粘土に押していました。木や竹の札に書いた文書を紐で縛り、結び目を粘土で包み、そこに印を押したのです。漢の皇帝は、「この印で封をして文書は、滇王の正式な文書として受理しますよ」という意味で授けたわけですね。封印に用いた粘土を封泥といえます。

ところで、展覧会の開催期間中、当館の東洋館では特集陳列「封泥」を開催しています。残念ながら滇王の封泥はありませんが、秦漢時代の皇帝以下、大臣や地方長官などの官職の公印を押した封泥二百余点を展示しています。特別展と合わせてご覧いただくと幸いです。（谷豊信）



金製宝珠首飾
隋時代・6～7世紀
陝西省西安市李静訓墓出土
藍色の石はラピスラズリ。
古代のラピスラズリは
ほとんどがアフガニスタン産と
考えられている



「滇王之印」金印
前漢時代・前100年頃 雲南省晋寧県石寨山6号墓出土
高さ1.8cm、辺長2.3cm、重さ90g
つまみは螺旋状になる蛇。2.3cmは漢時代の1寸に当たる



「皇帝信璽」封泥
秦～前漢時代・前3～前2世紀 阿部房次郎氏寄贈 高さ1.4cm、縦4.1cm、横3.5cm
皇帝の印を押した現存唯一の封泥。特集陳列「封泥」は3月4日(日)まで、東洋館第4室で開催

日中国交回復35周年・日本中国文化交流協会創立50周年記念

悠久の美 中国国家博物館名品展

1月2日(火)～2月25日(日)

東京国立博物館 平成館特別展示室第3・4室

主催：東京国立博物館 日本中国文化交流協会 朝日新聞社 中国国家博物館
後援：外務省 文化庁 中国大使館 中国文化部 中国国家文物局
協賛：トヨタ自動車株式会社 野崎印刷紙業株式会社 協力：全日本空輸株式会社
観覧料：一般1300円(1000円) 大学生800円(600円) 高校生700円(500円)
小・中学生 無料／()内は、20名以上の団体料金／障害者とその介護者
1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

レオナルド・ダ・ヴィンチ

—— 天才の実像

レオナルド・ダ・ヴィンチの真作「受胎告知」来日決定！

20代のダ・ヴィンチが渾身の力を傾けて描いた、天才の出発点ともいえる作品が
イタリア・ウフィツィ美術館から東京国立博物館へ。春を告げる特別公開 3月20日開幕です！



レオナルド・ダ・ヴィンチ「受胎告知」(1472-73) ウフィツィ美術館蔵 Su concessione del Ministero per i Beni e le Attività Culturali

レオナルド・ダ・ヴィンチがその六十七年の生涯で残したもののうち、「彼が中心となって制作し、ほぼ完成させるに至った彩色絵画」はわずかに十一点しか現存していません。その最初の作品が、この度最初で最後の来日となるであろう「受胎告知」(ウフィツィ美術館蔵)です。

まだ二十代になったばかりの若きレオナルドによって描かれた「受胎告知」は、完成された作品としては「最後の晩餐」に次ぐ大きさで、タブローとしては最大のサイズを誇っています。そして傷みの激しいレオナルド作品群の中にあつて、同作品は最も良好な保存状態を保っており、第三者による後世の加筆などが見られないほぼ唯一の作品ともなっています。

横長の画面は、ルネサンスならではの左右均衡の構図で占められており、右に聖母マリア、左に大天使ガブリエルを配し、イエスが宿つたことを告げる聖書の一場面が、静謐で厳かな雰囲気の中で展開されています。

線遠近法や、衣服や頭髮の表現などに、レオナルドは早くも卓越した技量を示しています。そして同時にこの作品は、植物への博物学的な関心や大気遠近法の効果など、彼が後に没頭していく自然科学への志向をいち早く示した実験の場ともなっています。多分野への関心につながる「芽」をいたるところに見出せることも、同作品を鑑賞する際の魅力のひとつです。

レオナルドがこの作品を描いた時点では、親方として登録されたとはいえ、彼はまだ工房で共同制作に励む若手芸術家の一人にすぎません。しかし、まさにこの作品を出発点として、レオナルドはそれまで人類が見たこともない知の深淵へと歩を進めていったのです。

本展覧会では、イタリアが誇るこの至宝を迎えるにあたり、この作品から始まる彼の「芸術と科学」の試行錯誤のすべてを紹介いたします。五〇〇年前に生きたたった一人の人間が成し遂げた、偉大な精神活動の記録をあますところなく概観できる、これまでに例を見ない展覧会となるでしょう。

(池上英洋 本展日本側監修者、恵泉女学園大学助教授)

レオナルド・ダ・ヴィンチ —天才の実像

3月20日(火)～6月17日(日)

東京国立博物館 本館特別5室・平成館特別展示室第3・4室

主催：「イタリアの春 2007」実行委員会 東京国立博物館

朝日新聞社 NHK NHKプロモーション

観覧料：一般1500円(1300円/1200円) 大学生1200円(1000円/800円) 高校生900円(700円/500円) 小・中学生 無料

()内は、前売り/20名以上の団体料金

障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

■ 関連事業

記念講演会「レオナルドの精神(仮題)」

講師：パオロ・ガルツツィ(フィレンツェ科学史博物館館長)

3月21日(水・祝)13:30～15:00 平成館大講堂

申込方法：事前申込制(定員380名)

*官製往復はがきの「往信用裏面」に、郵便番号・希望日・住所・氏名(ふりがな)・電話番号、「返信用表面」に、郵便番号・住所・氏名を明記して下記までお申し込みください。*1枚の往復はがきで、1名のみ申し込み可能。*応募多数の場合は、抽選のうえ受講券(1枚で1人受講可)を送ります。聴講無料(ただし、特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ—天才の実像」の観覧券が必要)

申込先：〒102-0083東京都千代田区麹町3-7半蔵門村山ビル4F「ダ・ヴィンチ展記念講演会」係
締切：2007年3月2日(金)必着

特集 陳列

下絵

——悩める 絵師たちの軌跡

2月20日(火)～4月1日(日)
本館特別1・2室

「下絵」

は工芸品の下図
や、書の料紙に装

飾のために描かれた絵を指すこと
もありますが、ここでは、絵を描く
ための下描きという意味に用いま
す。画稿といってもよいでしょう。こ
の特集陳列は、江戸時代のさまざま
な絵師の下絵を集めて、その魅力を
楽しんでいただくというものです。

実際の画面に描く前に、絵師たち
は別の紙に下絵を描いて構図や配
色を練りました。障壁画や屏風の
場合は、最初は小さな紙に描いて構
図を整え、原寸大の下絵に拡大し
ました。前者を小下絵、後者を大下
絵とよびます。

一図のために何枚も描かれた下
絵や、部分図を貼り合わせて作られ
た下絵を見ると、構想の変化の過程
や絵師の苦心のあとがよくわかり、

大変興味深いものがあります。また、
生き生きとした自由な筆遣いで描
かれた下絵には、完成画にない迫力
を発揮するものもあって、その絵師
の力量を改めて見直すこともある
でしょう。

ところで、現代のわれわれはすべ
ての改変が絵師本人の意思で行わ
れていると思いがちですが、現実
は必ずしもそうではありません。依
頼者の注文による変更が少なから
ずあるからです。とりわけ「お抱え絵
師」の場合、將軍や藩主の「お好み」
は絶対でした。自らの意にそぐわな
い命令でも従わなくてはならなかつ
た絵師たちには、かなりのストレス
がたまったことでしょう。

下絵の中に込められた、悩める絵
師たちの心の軌跡を読み取っていた
だけなら幸いです。

(松原茂)



江戸城障壁画下絵〈西の丸御殿 表 大広間 法眼溜〉(部分)
狩野晴川院筆 江戸時代・天保9～10年(1838～39)
小下絵。胡粉で塗りつぶして描き直したあとが生々しい。
これを清書して、將軍に見せるための伺下絵というものが作られた



坪内老大人像画稿 渡辺崋山筆
江戸時代・文政元年(1818)頃 岡野哲策氏寄贈
老武士の気骨ある風貌を臨場感豊かに描き出した、
魅力あふれる崋山の下絵

石山寺縁起稿本(部分) 谷文晁筆 江戸時代・文化元～2年(1804～05)

鎌倉時代の原本が失われた第6・7巻の絵の補作を石山寺に依頼された松平定信が、谷文晁に描かせたもの。前段階の下絵も合わせて展示します



これだけは
見逃せない!
おすすめの
この1点

壺の中から見上げてみれば……

重文 色絵月梅図茶壺 仁清

1月2日(火)～3月18日(日)
本館13室 陶磁

「おう、これが色絵月梅図茶壺か」

今、これを読みながら、図版をご覧
になってそう思われた貴方は、とて
も素晴らしい人だと思えます。帽子
の絵を見ながら、実はそれがゾウを
飲み込んだボア・コンストリクター
(大蛇)の絵であることが分かる、純
粋な目と心をお持ちということで
す。残念ながら、少年の心を失って
しまった私には、「月梅図といいなが
ら、月がないではないか」と思えてし
まうのです。「あつ、実は私にも月が
見えなくて……」という貴方、是非、
博物館でこの作品をご覧下さい。月
梅図茶壺は、ぐるりと四方向から眺
めることのできる行灯(あんどん)ケー
スと呼ばれるケースで、貴方をお待ちしてい
ます。

仁清(にんせい)の色絵陶では、立体をいかに
絵によって飾るかという点でさまざ
まな試みがなされています。同じく
13室陶磁のコーナー、京焼の展示ケ
ースには「色絵牡丹図水指」が展示さ
れていますので、それと比べて見て
ください。牡丹の絵を四枚の紙に描



◎色絵月梅図茶壺
仁清 江戸時代・17世紀
月梅図といいながら、月の姿が見えません

いたとしま

しょう。それを

四方から水指に

貼ることで「色絵牡丹

図水指」は出来上がっている

のです。ところがこの茶壺ではそう

簡単にはいきません。茶壺は上部に

ほとんど球に近いふくらみをもつて

います。

そこにも絵が描かれています。これ

を一枚の絵にしようとする、メル

カトール図法の地図

のように上部の大きく

歪んだ絵となってしまううで

しょう。この茶壺に描かれた絵は、

立体の上になしか描くことのできない

絵なのです。

鑑賞法は二つです。壺のまわりを

まわり、時には上の方から見下ろす
ように眺めたりして、立体絵画を楽
しみましょう。ふたつめの鑑賞法は
もう少し高度な技です。充分に外
から立体絵画を鑑賞したら、思い切
って茶壺の中に飛び込みましょう。
そこで内側から茶壺に描かれた絵
の世界を「見る」のです。梅の老樹が
枝をいっぱい伸ばし、紅白の梅が
咲いています。金色の雲がたなびき、
頭上を見上げれば白銀に輝く月が
ある……。

仁清立体絵画の最高の作品であ
ります。
(伊藤嘉章)



月は壺の天空に
輝いています

注目の特集

本館9室 能と歌舞伎

大奥の歌舞伎衣裳

特集陳列

歌舞伎衣裳「道成寺と桜」

2月20日(火)～4月22日(日)

東京国立博物館で展示される歌舞伎衣裳はちよつと趣向が変わっています。成人男性の役者ではなく、女性の歌舞伎役者・坂東三津江が使用していたものだからです。大奥は男性が容易に出入りすることができませんでしたが、それでも歌舞伎を見たという將軍や大名の奥方や息女のために、女性の歌舞伎役者が活躍しました。今回は桜の季節に

ちなで、第十一代熊本藩藩主細川斉樹夫人、蓮性院(天明五年へ一七八五)文久元年(一八六一)の前で演じられた『京鹿子娘道成寺』の衣裳のほか、坂東三津江の歌舞伎衣裳の中から桜をデザインした衣裳を展示いたします。歌舞伎衣裳ならではの柄で鮮やかな色彩が奏でるあでやかな世界をお楽しみください。

(小山弓弦葉)

振袖 紅縮緬地桜流水模様
江戸時代・19世紀 高木キヨウ氏寄贈
中綿で肉付された刺繍やアップリケが立体的な「本朝二十四孝」八重垣姫役の振袖



本館14室 工芸

桃の節句のお祝いに

特集陳列「お雛様と人形」

2月27日(火)～4月8日(日)

旧暦三月三日の桃の節句に、宮廷行事にちなんで行われるようになったひな祭り。もともとは、人形にまじないをかけて川に流すことによつて無病息災を願ったと言われています。江戸時代には紙でできた愛らしい立雛、宮廷貴族風の衣裳をまとった坐雛である室町雛・寛永雛・享保雛、また上方で流行した丸顔が特徴の次郎左衛門雛、江戸で流行した面長の古今雛など、さまざまな雛人形が庶民の家庭に飾られ、少女たちの健やかな成長をお祝いするようになりまし。当館では、江戸時代後期の雛人形を中心に、今年も恒

例の雛人形の数々を展示いたします。そのほか、今回は、京都で製作され、宮廷で贈り物に用いられた童子姿のお人形、御所人形を併せて展示いたします。

(小山弓弦葉)



立雛(次郎左衛門頭) 江戸時代・18世紀
京都の人形師・次郎左衛門がはじめた、まんまるのお顔に引き目が特色

本館15室 アイヌ民族資料

自然との共生を目指す

特集陳列「アイヌの暮らし」

3月6日(火)～5月27日(日)

アイヌの人びとは、北海道島や周辺の島々の厳しい自然のなかで暮らししていました。自然を神とあがめ、自然と共生した暮らしを営んでいました。チセと呼ばれる平地式の住居を中心に、倉庫、飼育檻、祭壇、便所などが一つの単位となっていました。男性は狩猟具の手入れやマキリを用いてイクバスイ・イナウなどの祭祀用具をつくり、女性は着物やゴザ

の製作や食事の支度などをおこなっていました。

今回の特集陳列では、さまざまな形の機織具とそれを

を用いて製作された衣服や布、漁撈具や木製の器など、生活に密着した資料をもとにアイヌの人びとの暮らしを紹介いたします。

(目高慎)



マキリ 北海道アイヌ・19世紀 徳川頼貞氏寄贈
拵えに施された彫刻の細かさと美しさ

日本の博物学シリーズ

特集陳列 「船の世界」

2月27日(火)～4月22日(日)



將軍乗船図

江戸時代・19世紀 徳川宗敬氏寄贈
(展示期間3月25日まで)
三代家光が建造した全長34mの
將軍の御座船

四方を海に囲まれた日本は、昔より海と船から多くの恩恵をうけてきました。古い時代の船は出土品を除いてほとんど残っていませんが、絵画資料などから、当時の船の姿や役割を知ることができます。鎌倉時代の海船をはじめ、江戸時代の御座船・商船・漁船・漂着船にいたるまで、船の歴史を伝える資料を展示いたします。

(高橋裕次)

東洋館第3室 インド・東南アジアの染織

世界を魅了した更紗、イカット、カシミヤ…

特集陳列 「インドの染織」

3月6日(火)～5月27日(日)

更紗、イカット(紬)、カシミヤ・シヨールなど、インドの伝統工芸の中でも染織はその質においてもデザインにおいてもすばらしく、耳にしただけで心が浮かれる女性も多いことでしょう。実際、絹のように細く上質な木綿糸で織られた布地に手描きや木版捺染で花鳥や動物文様をなした更紗、さまざまな色に染められた繊細な毛糸を用いて綴織や刺繡

で細密にペイズリー柄を表したカシミヤ・シヨールは、一七～一八世紀のヨーロッパ女性を魅了し、ドレスやコートなどにも仕立てられました。更紗に対するヨーロッパ人の思いは日本にも飛び火して、オランダ船を介してインドから日本に輸入され、おもに茶人たちの間で愛好されました。伝統の美を誇るインド染織の数々をご覧ください。

(小山弓弦葉)

東洋館第8室 中国書跡

書道博物館との連携展示。2館をめぐるツアーはいかが？

特集陳列 「抵抗と恭順」

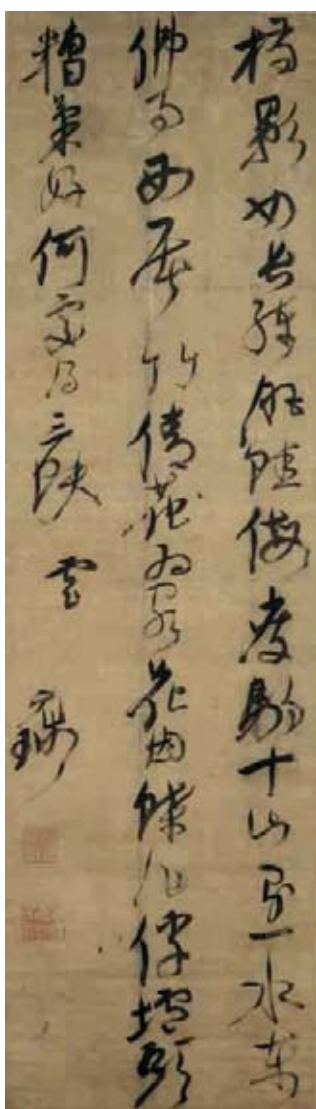
― 明末清初の書人たち ―

1月2日(火)～2月25日(日)

漢民族が異民族(満州族)に覇権を奪われた明末清初の時期、明の遺臣たちは清朝に抵抗するか恭順するか、苦渋の選択を強いられました。この時期の書の見どころは、拠るべ

き権威を失った明の遺臣や烈士たちによる、激動の世相を反映したかのような特異な表現にあります。董其昌らによって洗練された連綿趣味は、やがて胸中の激情を吐露した気

性の激しい連綿草や、豊かな情感を盛り込んだ個性的な表現に移行するのです。台東区立書道博物館でも同タイトルの展覧会を開催(1月4日(木)～2月25日(日))。上野の山頂とふもと、ふたつの博物館の連携企画になる、明末清初の書の世界を存分にお楽しみください。(富田淳)



草書五言律詩軸 倪元璐筆
明時代・17世紀 尾崎洵盛氏寄贈
崇禎帝が自害すると、倪元璐も衣冠を整え詩を賦し、白絹をとって自縊した



金更紗製 赤地クリシナ文様・18世紀
上質の木綿地に手描きで模様を表し、草木染や金箔の文様が美しいインドの古更紗

気になる
この部屋・
この作品

本館2室 国宝室

最澄との交流を示す書状

国宝 風信帖 空海筆

2月27日(火)～3月25日(日)

三筆として名高い空海(弘法大師)が、最澄(伝教大師)に宛てた自筆の書状です。一通目は、最澄から『摩訶止観』を贈られたことに対する礼と、重要な教義について意見交換するため高雄山寺(現在の神護寺)へ来訪を依頼するもの。二通目は、御香二包と藤原冬嗣からの書状を拝受したこと、三通目は、法会が終わり次第、比叡山の最澄のもとを訪ねることを伝えています。三通それぞれに書法・筆勢・墨色が少しずつ異なり、見るたびに驚きと発見のある作品です。(丸山猶計)



●風信帖 空海筆 京都・教王護国寺蔵
平安時代・9世紀
唐から帰国してまもない弘仁年間の筆と推定される

本館3室 宮廷の美術

花鳥と風俗をあわせて描く

重文 浜松図屏風

1月16日(火)～2月25日(日)

海浜・松・船を描く室町時代の浜松図の典型とはやや異なり、画面の下三分の一は、小鳥たちが草花の咲く中を楽しげに飛び回り、まるで花鳥図のようです。上方には漁師や狩りの一行が描かれていて、風俗画的な要素も含まれています。浜辺や雲にほどこされた金彩は、次の安土桃山時代に流行するギラギラした金地とは異なり、柔らかな微光を帯びているような、この時代特有の質感を呈しています。次代の狩野派によ

本館7室 屏風と襖絵

教養人の四つのたしなみ

重文 琴棋書画図屏風

海北友松筆

1月30日(火)～3月11日(日)

かつての日本の貴族や上層の武家は、文事管弦に秀で、その道を極めることが、もつとも切実で重要なものと考えていました。とくに、琴を奏で、碁を打ち、書画を愛し、たしなむことは四芸といわれ、たいへん愛されました。それらをあらわした「琴棋書画図」は、古来、水墨画の重要な画題として、ふつうは男性の姿で描かれたましたが、友松は、中国の女性の姿で表現しています。そのこ

る豪壮華麗な金地濃彩の大画面花鳥図様式が登場する前の、貴族好みの伝統的様式をよく示す作品です。(救仁郷秀明)

●浜松図屏風(部分) 室町時代・16世紀
花が咲き乱れ、鳥が歌う、美しく楽しい風景



とから、貴族や武家が子女の教養を高めるために本図を注文したのではないかと考えられています。(松嶋雅人)



●琴棋書画図屏風(部分)
海北友松筆 安土桃山～江戸・16～17世紀
現代日本における必須のたしなみとは?

本館10室 浮世絵

名作・赤富士

富嶽三十六景 凱風快晴

葛飾北斎筆

2月14日(水)～3月11日(日)

白い鱗雲が棚引く碧天を背景に、暁に照らされて赤く聳える富士の姿。葛飾北斎の「富嶽三十六景」のなかでも、最も鮮烈な富嶽のひとつです。この赤く燃える山容は、フランス印象派の画家などに大きな影響を与えました。「林忠」の印章が捺された本図は、画商・林忠正からフランス人のH・ヴェヴェールの所蔵を経て松方コレクションとなったもので、一九世紀ヨーロッパにおけるジャ

本館11室 彫刻

日本固有の神の姿

重文 男神坐像

1月2日(火)～4月1日(日)

近世以前の日本彫刻の中心は仏教彫刻でした。寺院には必ず仏像が安置されますが、神社では鏡や石、ときに山や木などが祀られ、神像はあまり造りだされませんでした。ここで紹介するのは日本固有の神の姿を表わした神像です。多くの神像は、この像のように古代の貴族の正装であつた束帯の姿で表わされます。厳しく威厳のある表情、脚部

ポニズムを考えるうえで見逃せない作品であると同時に、現代の私たちの目にも忘れえぬ印象を与えてくれる名品です。(小野真由美)



富嶽三十六景 凱風快晴
葛飾北斎筆 江戸時代・19世紀
富嶽三十六景から、神奈川沖浪裏も同時出品されます

の奥行きが狭い表現は神像彫刻の特徴です。この像が祀られる大將軍八神社は、束帯と武装の神像が八十体も伝わる大変珍しい神社で、今回は武装神像も展示します。(丸山士郎)



●男神坐像(53号)
平安時代・11世紀 京都・大將軍八神社蔵
威厳のある表情は神像の特徴です

鉄鐺に春の風景が広がる
月に桜花図鐺

1月2日(火)～4月1日(日)

月夜に桜が咲き、穏やかな春宵の景をみるようです。図様は旭に桜とする説もありますが、やはり月に桜とみるのが穏当なようです。加納夏雄(一八二八～一八九八)は、幕末期は本作品のような飾剣金具を制作し、明治維新後は花瓶や額絵などにも取り組む一方で新政府の貨幣制作に参加するなどしました。高肉象嵌で桜の枝を表裏連続させて配し、月が雲間から覗く様子を夏雄には珍しく布目象嵌を用いています。こうした工夫によって鉄鐺の上には情緒のある空間が生まれています。この表現こそ夏雄作品の魅力です。(酒井元樹)



月に桜花図鐺 加納夏雄作 江戸～明治時代・19世紀
一枚の鐺に情緒溢れる空間を表現。夏雄らしい作品

お守りか形見か

重文 足形付土製品

6月3日(日)まで展示

縄文時代の北日本には、乳幼児の手や足を粘土に押しつけて焼いた土製品があります。このような土製品には小さな穴が開けられており、紐を通し、吊り下げて使用したと推定されます。子供のすこやかな成長を願ったお守りのようなもの、あるいは、亡くなった子供の形見などの説があります。ちなみに、この



足形は一歳くらいの子のものとしてされています。縄文時代は乳幼児の死亡率が今よりずっと高かったと考えられています。当時の人々がどのような想いでこの土製品を作ったのか考えてみてください。(望月幹夫)

◎足形付土製品 新潟県山北町上山出土
縄文時代(後期)、前2000～前1000年
亡くなった子供の形見だろうか

伎楽の楽器

重文 彩絵鼓胴

2月25日(日)まで

奈良時代に盛んに行われた伎楽の楽器として用いられた大形の鼓です。左右の腕形をした乳袋の先に革をあて、革紐で締めて調律します。伎楽は、もともとは中国の呉の国で興り、推古天皇一〇年(六二二)に、百済の味麻之によって日本にもたらされたといわれています(『日本書紀』)。胴は広葉樹で作られ、表面に花卉文、唐草文が赤、緑、白で彩色されていますが、いまは剥落している部分が多く全貌はわかりません。伎楽は平安時代に舞楽が隆盛



◎彩絵鼓胴 奈良時代・8世紀
往時の華やかな文様に思いをはせて
*法隆寺宝物館はケースの清掃とメンテナンスのため2月26日(月)～3月12日(月)の間、一部または全室を閉室します

すると次第に衰微したため、面や楽器など現存するものが少なく、奈良時代のもものでは正倉院と東大寺、それに法隆寺献納宝物に残るに過ぎません。(原田一敏)

東京芸術大学の学生ボランティアによるギャラリートークのお知らせ

東京芸術大学の学生のみなさんが展示室で作品の解説を行います。
学生ならではの視点で繰り広げられるギャラリートーク、新鮮な発見があるはず。

仁清の陶器 本館1階13室

～色絵月梅図茶壺を中心に～

解説: 安河内幸絵(美術研究科芸術学専攻(工芸史))

日時: 1月19日(金)、1月24日(水)、1月27日(土)、2月1日(木)、2月8日(木)

仏涅槃図の群像表現 本館2階3室

～どうする!? 釈迦最期の時～

日時: 1月28日(日)、1月31日(水)、2月3日(土)、2月7日(水)、2月11日(日)

解説: 安藤香織(美術研究科芸術学専攻(日本東洋美術史))

妙法院蔵「千手観音像」について 本館1階11室

～大量造像に込めた祈り～

解説: 志田理子(美術研究科芸術学専攻(日本東洋美術史))

日時: 2月2日(金)、2月4日(日)、2月9日(金)、2月15日(木)、2月17日(土)



◎仏涅槃図



◎千手観音像 京都 妙法院蔵

旧大仙院方丈障壁画—伝狩野元信作品をめぐって— 本館2階3室

～中世末期の狩野派～

解説: 金子明代(美術研究科芸術学専攻(日本東洋美術史))

日時: 2月10日(土)、2月18日(日)、2月21日(水)、2月23日(金)、2月25日(日)

「華嚴五十五所絵巻」について 本館2階3室

～善財童子と仏たち～

日時: 2月28日(水)、3月7日(水)、3月10日(土)、3月14日(水)、3月17日(土)

解説: 梅垣野花(美術研究科芸術学専攻(日本東洋美術史))

如水宗淵筆「叭々鳥・鶴鶴図」について—墨の濃淡と余白の美—
本館2階3室

～モノクロームの世界へ～

解説: 渡邊美香(美術研究科芸術学専攻(美術教育))

日時: 3月4日(日)、3月8日(木)、3月11日(日)、3月15日(木)、3月18日(日)

*各回とも、15:30に本館1階エントランスに集合



◎色絵月梅図茶壺



叭々鳥図(部分)

ようこそ！ 博物館の 舞台裏へ



第14回

展示計画表の舞台裏

平常展室は、東京国立博物館のすべての平常展の要です。展示作品テーマの選定など展示計画の作成、展示替に関わる実務全般、展示に伴う解説・案内パネルの作成と掲示などなど平常展に関わることを全てを取り仕切っているのが、こゝ平常展室です。室長の伊藤嘉章さんに、展示の仕事について聞いてみました。

「平常展室の仕事を理解してもらうなら…そうですね、まずはこの表を見てください」と伊藤さん。

すべての展示室の展示期間とタイトルが記された表(表1)をパソコンの画面に呼び出して見せてくれました。

「東博で扱っている日本と東洋の美術は素材や技法の面でたいへん脆弱なものが多く、長い時間展示室に出しておくわけにはいきません。そこで、ジャンルごとに定められた展示期間にしたがって、展示替が行われています。つまり、本館の1室にはいついっても〇〇がある、という状況にはないわけです。この表はその展示替のスケジュールのうち本館についてすべて集約したものです」

心地よく鑑賞していただくために 展示のしごと

博物館の表舞台といえば、「展示」です。表舞台だけでなく、お客様からもさまざまな意見が寄せられ、責任も重大です。では、表舞台の舞台裏では、担当者はどんなことを考えているのか、平常展の要、伊藤嘉章平常展室長が、展示の極意を語ります。

表1



本館13室。展示室の入り口に立って空間の特性を見極める

各展示室のコンセプトに照らしながら、収蔵作品をどうローテーションさせ、いかに面白い展示を実現させるか、が各展示室の担当研究員の腕の見せ所です。例年、前年の年末までに担当の研究員から展示プランが提出されます。

それらを束ねて全体の展示計画を作るのが平常展室の仕事。どんなふうに組み立てているのか、伊藤さんに聞いてみましょう。

「たとえば、特別展と特別展の間に人気の出



伊藤嘉章平常展室長

そうな特集陳列を入れたり、季節に合わせた展示テーマの流れをつくるなど、年間を通しての展示計画を練ります。

さらに、館内外のイベントにあわせた計画の立案・調整をします。二〇〇六年度の例をあげると、上野公園の開園百三十周年記念にあわせて、上野公園の歴史を振り返る歴史資料の特集陳列を、秋に行われた台東区の伝統工芸職人展にあわせて、伝統工芸の技術記録の特集陳列を行いました。

また、毎週どこかの展示室で行われている展示替の作業人員のやりくりなども考えあわせ…展示ケースの



13室は縦に長い部屋。手前から、陶磁、漆工、刀剣の3つのコーナーが並ぶ。左側が各コーナーをつなぎ、さらに先の14室へとつながる通路になっている



大きな壺で視線をひきつけ、かつ「視覚の壁」を作る。わかりやすくきれいな色絵の作品を手前に置く

メンテナンスなど、お客様に心地よく鑑賞していただくための施設管理の仕事もスケジュールに組み込み：そうそう、年に一度のボイラー点検も勘案して……。言葉で言うとは簡単なのですが、この展示計画表を完成させるまでが大仕事なんですよ」

実際、ここまでまとめるのには大変な時間と労力がいられます。そして、このスケジュールに沿って、各専門分野の研究員が作品を確定し、デザイン室、教育普及課、保存修復課、広報室、施設管理に関わる環境整備室など、平常展室以外にも館内の多くの部署が連携し、平常展を維持していくのです。

本館1階13室の秘密

伊藤さんには、「平常展の大元締め」のほかにもうひとつの顔があります。

本館4室の茶の湯のコーナーや、本館13室の陶磁のコーナーなどを担当する日本陶磁の一研究員としての顔です。この道25年の大ベテランであ

る伊藤さんが、どんなことを考えてプランを作っているのか、13室の陶磁コーナーを例に展示の極意を聞いてみました。

「本館は、2階の時代別展示で日本美術の流れを大まかにつかんでいただくようになっています。それに對して、ここ13室のある1階はジャンル別展示。それぞれのジャンルの作品をもっと詳しくじっくり見たいお客様のための部屋です。展示の内容については、各ジャンルの専門の研究員にほぼ任されています。年間を通して各時代のさまざまな作品をくまなく展示しよう、という人もいれば、季節に合わせた作品を軸に展示計画を立てる人もいます。

私が担当している陶磁のコーナーでは、年間を通して江戸時代と安土桃山時代の作品で展示を構成しています。やきものというと縄文時代からはじまって一万年をこえる歴史があります。それらを全部見せるという考え方もあるけれど、ここでは一番面白いところだけ凝縮して見せようという考えをとりました。つまり、日本のやきもので一番面白いところ、茶の湯の焼き物が頂点を極めた安

土桃山から江戸時代にかけてと、わかりやすくきれいな、かつ多様な展開を見せた江戸時代のやきものを心ゆくまで堪能してもらおう、というコンセプトで展示プランを作っているのです」

通り抜け禁止！

実際に展示室を案内してもらいながら話を聞くことにしましょう。本館1階13室、細長い部屋の入口付近が陶磁のコーナーです。この展示室は陶磁、漆、刀剣と大きく三つに分かれています。13室の入口に立った伊藤さんが、向こうに見える13室の出口を指差しながら語ります。

「展示を考えるとときは、まず部屋の入口に立って、その展示室の特性をよく見極めることです。部屋の左側はこの3つをつなぐ通路になっています。見通しがよく動線がスムーズであることはこの展示室の長所なのですが、それは、お客様がすーっと通り抜けてしまいかもしれない、という大きな欠点でもあるのです」

なるほど、お客様はここを通り抜けただけで、展示を見たような気になるかもしれません。



京焼のバリエーションを見せるケース。グループを作って展示することで、それぞれ特徴がより理解しやすくなり、味わいも増す



柿右衛門様式のグループ。それぞれの作品に適した台を配し、高さの変化をつけた展示



桃山の茶陶のケース。側面から見ると、奥行きを使って前後の変化をつけて見せていることがわかる

「われわれが目指すのは、通路を通り抜けようとするお客さまに、足をとめて見たいと思わせることです。そこで重要なのがコーナーで最初に見る展示作品の選択です」

桃山茶陶と江戸の陶磁を扱うのであれば、通常は古いほう、つまり桃山から展示すべきところ、伊藤さんはわざとひっくりかえして江戸―桃山の順に展示しています。

「江戸のやきものは、とてもわかりやすくきれいなんです。洋の東西を問わず、ああきれいだね、と抵抗なく入っていく美しさがあります。それに対して桃山茶陶は理解するのに、ある程度の知識や感性が必要になってくると思います。たとえば、人によつては、ゆがんだ花入をみて、こんな俺でも作れる、と思ったり、何が書いてあるのか判然としない絵を見て、小学生の息子の描いたのと同じだ、などと思ったりする。そうやってしまつと、なかなか鑑賞というところに到達しづらいのです。そこで、江戸―桃山の順番で展示することにしたので。そうすると、多くの人が陶磁を楽しむことができ、桃山茶陶の造詣の力強さもよりひきたつという効果があるのです」

ここで展示の鍵になっているのは、伊万里の金欄手の大きな壺なのだそうです。

「この空間で大切なのは、中央の大きなケースですね。ここには通常大きいものを入れ、『ここがやきもののコーナーであること』をアピールします。大きさ、形、色ともにインパクト

のあるこの作品に、お客様の視線は吸い寄せられます。この位置と大きさで、向こうが見通せなくなっていますから、お客様の視線はいつたんここですどんととまるはずですよ。この「視覚の壁」を作ることが重要なんです」

やきものはグループで

お客様の足を止めさせたら、こつちのもの。あとは、いかにわかりやすく展示するか、です。

「わたしは、ケースによつて役割を分けています。今回は前半が江戸時代の伊万里と京焼ですね。そのなかでさらにケースごとにわかりやすい区分を作ります。たとえば江戸のやきものでは①京焼、②鍋島、③初期伊万里と九谷様式と鍋島、④柿右衛門様式と輸出用の伊万里の金欄手、といったふうによす」

作品の並べ方にルールはあるのでしょうか？

「作品のジャンルによつてさまざまでしょう。たとえば、密教法具などは、作品ひとつひとつの力がとても大きいので、ケースのセンターに、まっすぐ、等間隔に置くだけでも、ひとつひとつの作品とむきあつてもらうことができます」

しかし、やきものの場合、とくに日本のやきものは、ほとんどが日常に使うものであり、元来一対一で向き合つて鑑賞するようには作られていないのです。ほかのものと一緒にセットで並べるほうが、引き立つ場合が多いのです。

そこでわたしは、いくつかの作品を合わせてグループを作っていきます。ケースの奥行きを十分に使い、高さの変化を取り入れて展示しています。たとえば、茶の湯の席の取り合わせそのままを再現するわけではありませんが、調度として暮らしの中で触れるもの、そんな気分を展示にも出せたらいいと思っています」

作品をどうとらえるか、担当の研究員の感性がそのまま展示に反映されているようです。

最後に、理想とする展示について聞いてみました。

「どんな展示だったか覚えていないような展示ですね」と、伊藤さん。それでは苦労した甲斐がないではないですか。

「たとえば、作品が曲がつて置かれていたり、あまりたくさんぎっしり置かれていたりしたら気持ち悪いでしょう。変な印象が残らないということが、心地よさの証拠だと思つています。余計な印象を持たず、お客様が作品に集中できる展示がいい展示だと思つています」

それにしても、展示のことを語る伊藤さんは楽しそうです。

「なんにも考えずに作品に集中できる展示」を目指して自ら作品と向き合う毎日、研究者としては極上のものに違いありません。

そろそろ、来年度の展示計画表とにらめつこの季節がはじまります。それぞれの研究員の思いのこめられた展示、皆様もどうかお楽しみに。

(小林牧)

コンサート開催のお知らせ

東京のオペラの森2007
NOMORIイベント・ウィーク ミュージアムコンサート

毎年恒例となった東京の春の訪れを音楽とともに祝う「東京のオペラの森」のミュージアムコンサート。春の博物館を音楽とともにをお楽しみください

①平松英子&鈴木大介 デュオ・コンサート
#春をテーマにしたギターの名曲をお楽しみください#

日時 3月3日(土) 14:00開演 13:15開場
会場 東京国立博物館 表慶館
出演 平松英子(ソプラノ) 鈴木大介(ギター)
曲目 禁じられた遊び(スペイン伝承曲)、アルハンブラ宮殿の思い出(タレガ)
料金 3,000円 130席/全自由席
※コンサート当日、平常展をご観覧いただけます

②加藤知子 ヴァイオリン・リサイタル
#日本を代表するヴァイオリン奏者、加藤知子がベートーヴェンの名曲
ヴァイオリン・ソナタ「春」をお届けします#

日時 3月4日(日) 14:00開演 13:15開場
会場 東京国立博物館 表慶館
出演 加藤知子(ヴァイオリン)
曲目 ヴァイオリン・ソナタ第5番「春」(ベートーヴェン) ほか
料金 3,000円 130席/全自由席
※コンサート当日、平常展をご観覧いただけます

③春のモーツァルト
#モーツァルトの時代の喜遊曲や室内楽で陽気な春をお楽しみください#

日時 3月11日(日) ①11:00 ②14:00 (各回30分程度)
会場 東京国立博物館 平成館ラウンジ
出演 ラ・バンド・サンパ(弦楽四重奏) 小倉貴久子(フォルテピアノ)
曲目 デイヴェルティメントニ長調、さらさら星変奏曲 ほか
料金 無料(当日の平常展観覧料は必要)

主催 東京のオペラの森実行委員会
共催 東京国立博物館
お問い合わせ 東京のオペラの森
TEL 03-3296-0600 URL <http://www.tokyo-opera-nomori.com>
※チケットは東京国立博物館(窓口のみ)、東京のオペラの森、東京文化会館チケットサービス
ほか、各種プレイガイドで販売

松岡みやび ハープ・コンサート
#春爛漫の表慶館で松岡みやびの新しいハープの世界に酔う#

日時 3月31日(土) ①14:30開演 ②18:30開演
会場 東京国立博物館 表慶館

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より一年(入会月の翌年同月末日まで)有効。賛助会員には、特別会員と維持会員との二種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上
維持会員 法人 20万円
個人 5万円

特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付

*賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。

*お問い合わせ

東京国立博物館営業開発部 賛助会担当
TEL03-3822-1111(代)

出演 松岡みやび(ハープ)
曲目 アメージンググレース(アメリカ民謡)、ハープ変奏曲(ヘンデル)
料金 4,000円(平常展観覧券付) 130席/全席自由
※友の会・キャンパスメンバーズの方は3,000円
※コンサート当日、平常展をご観覧いただけます
主催 東京国立博物館 サロン・ド・ソネット

〈チケットのお求め方法〉

- 当館正門観覧券売場でのチケット販売
受付 開館日の9時30分～閉館30分前(月曜休館)
- 電話予約販売
申込先 東京国立博物館 イベント担当 TEL03-3821-9270
受付時間 月曜日～金曜日の9時30分～17時00分(祝日は除く)
引換時間 コンサート当日、当館正門観覧券売場にて現金引換にてお渡しします。
※各イベント詳細は、当館ホームページでご確認ください。
※お車でのご来館はご遠慮ください。

春の庭園開放

3月10日(土)～4月15日(日) 10:00～16:00
本館北側の庭園を公開します。由緒ある5棟の茶室が点在する庭園を散策してみませんか。エドヒガンサクラからギョイコウザクラまで、およそ10種類の桜が次から次へと花開きます。天候により開放中止となる場合もあります。
入園無料。ただし当日の入館料は必要です。

プレゼントのお知らせ

◆レオナルド・ダ・ヴィンチ天才の実像 招待券プレゼント
本誌5ページで紹介した「レオナルド・ダ・ヴィンチ天才の実像」展の招待券を抽選で20組40名様にプレゼントします。締め切りは3月10日。

◆ポストカードブック 「東京国立博物館 四季の彩り」プレゼント

所蔵品から庭園まで、東博の四季の魅力をぎゅっと凝縮したポストカードブック「東京国立博物館 四季の彩り」(東京美術刊 1,050円)が発売されました。黒門にククモモ、満開の桜と茶室、新緑のユリノキと表慶館など、美しい風景写真と名品のポストカードが24枚。東博で楽しめる四季の花暦もついています。このポストカードブックの発刊を記念して、抽選で20名様にプレゼントします。締め切りは3月10日。

※プレゼントの応募方法

はがきに、住所、氏名(ふりがな)、男女、年齢、職業、希望賞品(ダ・ヴィンチ展招待券かポストカードブックのいずれか一方)、ならびにこの号でいちばん面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。
〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館
広報室「ニュース2・3月号」プレゼント係



東京国立博物館賛助会員 2006年12月15日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社コア 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミロク情報サービス 様
TBS 様
東京新聞・中日新聞社 様
株式会社 電通 様
読売新聞東京本社 様
クラブツーリズム株式会社 様
三菱商事株式会社 様
トヨタ輸送株式会社 様

維持会員

三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
井上 萬里子 様
田添 博 様
京葉匠 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
服部 禮次郎 様
数内 匡人 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
佐々木 芳絵 様

藤原 紀男 様
小田 昌夫 様
吉岡 昌子 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
上久保 のり子 様
櫛田 良豊 様
株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
コクヨ株式会社 様
星 埜 由尚 様
株式会社 鴻池組 東京本店 様
株式会社 アクタス 様
林 宗毅 様
安田 敬輔 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
堀江 磨紀子 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術藪本 様
飯岡 雄一 様
峯村 協成 様
大嶋 道子 様
牧 美也子 様
高瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
寺浦 信之 様
高木 美華子 様
晩飯島工業株式会社 様
山岡 コウ子 様
古屋 光夫 様
根田 穂美子 様

松本 澄子 様
鷲塚 泰光 様
是常 博 様
上野 孝一 様
北山 喜立 様
謹慎書道会 様
社団法人 全国学校栄養士協議会 様
小笠原 繁 様
山田 泰子 様
原 光介 様
近代書道研究所 様
佐野 英基 様
田村 久雄 様
日本畜産興業株式会社 様
有限会社 アートオフィスJC 様
高橋 徹 様
柴田 陸子 様
絹村 安代 様
高橋 良守 様
臼井 生三 様
津久井 秀郎 様
藤倉 光夫 様
神通 豊 様
永久 幸範 様
五十嵐 良和 様
池田 慶子 様
株式会社 東京書芸館 様
青山 千代 様
藤崎 英喜 様
永田 実香 様
西岡 康宏 様
東野 治之 様
辻 泰二 様
竹下 佳宏 様
松原 聡 様
町田 昇 様
シチズン時計株式会社 様
〈ほか33名3社、順不同〉

TOPICS

◆大盛況の博物館に初もうで

今年もお正月は2日から開館、2日、3日の両日でおよそ一万人もの来館者をお迎えしました。正門では、お正月らしい松飾でお客様をお迎えし、新年の門出を祝いました。獅子舞、和太鼓、江戸の遊芸などの伝統芸能も盛りだくさん。毎年お正月は博物館で、というお客様もいらつしました。



◆台東区立書道博物館から東博へ。

中国書跡のツアーはいかが？

東京国立博物館東洋館第8室と台東区立書道博物館で、「抵抗と恭順―明末清初の書人たち―」と題し、統一テーマによる中国書跡の展示を2月25日まで行っています。2月15日には、両館で同じテーマでギャラリートークを行います。この機会に東博から書道博へ、書道博から東博へ、中国書跡のツアーをお楽しみください。

東京国立博物館 東洋館第8室

2月15日(木) ①午前10時

②午後1時30分

講師・富田淳(東京国立博物館列品課

列品室長)

※各回同内容です

※聴講無料(ただし当日の入館料は必要)

※当日開始時間までに展示室にお集まりください。事前申込不要

台東区立書道博物館展示室

2月15日(木) ①午前11時30分

②午後3時

講師・鍋島稲子(台東区立書道博物館研究員)

※各回同内容です

※聴講無料(ただし当日の入館料は必要)

※事前申込制 各回定員30名

申込方法・官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名・電話・希望日時を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記し左記にお申し込みください。

T110-0003 台東区根岸2-10-4

台東区立書道博物館ギャラリートーク係

締切・2月3日(土) 必着

◆MUSEUM605号

(平成18年12月15日発行)の掲載論文

①「永青文庫所蔵の魯庵純拙筆 贈雪舟送別詩并序」救仁郷秀明(当館列品課主任研究員)

②「東京国立博物館蔵(護持院ヶ原図)(伝司馬江漢筆)の作者」金子信久(府中市美術館学芸員)

③「新収品紹介 木造阿弥陀如来立像」浅見龍介(当館出版企画室長)

④「新収品紹介 金銅輪宝」加島勝(当館教育普及室長、ボランティア室長)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で

友の会

加入者名(振替先)東京国立博物館友の会

口座番号00160-6-406616

*振替用紙には職業・年齢・性別・ご希望のプレゼント番号(パンフレット、ウェブサイト参照)を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート

口座番号00140-1-668060

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください

*振替手数料はお客様の負担となります

*郵便振替でのお申し込みには2週間かかります

◆問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース

口座番号00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

*振替手数料はお客様のご負担となります

*次号より送付ご希望の場合、締切は3月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30~17:00、2007年3月20日から12月の特別展開催期間中の金曜日と2007年4月27日~5月6日は20:00まで、2007年3月20日~9月の土・日・祝・休日は18:00まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月1日)。2007年6月25日、26日は臨時休館。ゴールデンウィークおよびお盆期間(8月13日~8月15日)は原則として無休

平常展観覧料金

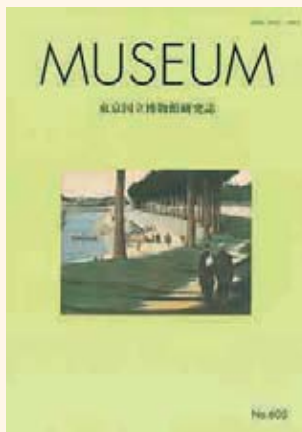
一般600(500)円、大学生400(300)円

※()内は20名以上の団体料金

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

*満70歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

*講座・講演会、友の会・パスポートおよび本誌定期郵送等のお申し込みの際にご提供いただいた個人情報に関しては、当該の目的にのみ使用させていただくものです。当館では個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします



来年度の開館時間・休館日についてのお知らせ

2007年度の休館日、開館時間が決まりました。

休館 毎週月曜(祝・休日の場合は翌日休館)、12月28日~2008年1月1日、1月4日。ただし、4月30日(月)、8月13日(月)は開館、6月25日~26日は電気設備点検のため臨時休館。

開館時間 9:30~17:00。3月20日から12月までの特別展開催期間中の毎週金曜日と4月27日~5月6日は夜間開館(20:00まで)。3月20日から9月までの土・日・祝・休日は時間延長(18:00まで)。

◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉

新春特別展覧会「京都御所障壁画 御常御殿 御学問所」 1月6日(土)~2月18日(日)

〈奈良国立博物館〉

特別陳列「お水取り」 2月10日(土)~3月18日(日)

〈九州国立博物館〉

ブライスコレクション『若冲と江戸絵画』展 1月1日(月)~3月11日(日)

2007年
2月

東京国立博物館 2007年2月・3月の展示・催し物

2007年
3月

1 THU	14:00 14:30 15:30「仁清の陶器」
2 FRI	15:00 15:30「妙法院蔵『千手観音像』について」
3 SAT	記念講演会「マーオリはどこから来たか」13:30 平成館大講堂*1 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30「仏涅槃図の群像表現」
4 SUN	講演会「臨床保存学のすすめ—文化財の保護と東博の使命—」13:30 平成館大講堂 14:00 14:30 15:30「妙法院蔵『千手観音像』について」
5 MON	休館日
6 TUE	列品解説「中国の封泥」14:00 東洋館第4室 上映会「クジラの島の少女(原題:The Whale Rider)」10:30, 14:30 平成館大講堂*2
7 WED	上映会「クジラの島の少女(原題:The Whale Rider)」10:30, 14:30 平成館大講堂*2 14:00 14:30 14:00 15:30「仏涅槃図の群像表現」
8 THU	上映会「クジラの島の少女(原題:The Whale Rider)」10:30, 14:30 平成館大講堂*2 14:00 14:00 14:30 15:30「仁清の陶器」
9 FRI	上映会「クジラの島の少女(原題:The Whale Rider)」10:30, 14:30 平成館大講堂*2 14:30 15:30「妙法院蔵『千手観音像』について」
10 SAT	14:00 14:30 講演会「マーオリのKORU—過去と未来を結ぶもの—クジラの島の少女の世界」13:30 平成館大講堂*1 15:30「旧大仙院方丈障壁画—伝狩野元信作品をめぐって—」
11 SUN	上映会「クジラの島の少女(原題:The Whale Rider)」10:30, 14:30 平成館大講堂*2 14:00 14:30 15:30「仏涅槃図の群像表現」
12 MON	上映会「クジラの島の少女(原題:The Whale Rider)」10:30, 14:30 平成館大講堂*2
13 TUE	休館日
14 WED	「発掘へんろ」展示解説 11:00, 14:00 平成館企画展示室*3 14:30
15 THU	「中国17世紀の書の魅力」東洋館第8室 10:00, 13:30*4 14:00 14:30 15:30「妙法院蔵『千手観音像』について」
16 FRI	
17 SAT	13:30 14:00 14:30 15:30「妙法院蔵『千手観音像』について」
18 SUN	12:30, 14:00 14:00 14:30 15:30「旧大仙院方丈障壁画—伝狩野元信作品をめぐって—」
19 MON	休館日
20 TUE	列品解説「涅槃図」14:00 本館3室
21 WED	「発掘へんろ」展示解説 11:00, 14:00 平成館企画展示室*3 14:00 14:30 14:00 15:30「旧大仙院方丈障壁画—伝狩野元信作品をめぐって—」
22 THU	14:00 14:30
23 FRI	14:30 15:00 15:30「旧大仙院方丈障壁画—伝狩野元信作品をめぐって—」
24 SAT	月例講演会「下絵が語る絵師たちの苦心」13:30 平成館大講堂 14:00 14:30 15:00
25 SUN	悠久の美 最終日 14:00 14:00 14:30 15:30「旧大仙院方丈障壁画—伝狩野元信作品をめぐって—」
26 MON	休館日
27 TUE	列品解説「巴形銅器と銅釧」14:00 平成館考古展示室
28 WED	「発掘へんろ」展示解説 11:00, 14:00 平成館企画展示室*3 14:00 14:30 15:30「華嚴五十五所絵巻」について」

- =ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所:本館1階エントランス
 =ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド、集合場所:本館1階エントランス
 =ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所:本館1階エントランス
 =ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所:本館1階エントランス
 =ボランティアによる樹木ツアー、集合場所:本館1階エントランス
 =ボランティアによる考古展示室ガイド、場所:平成館考古展示室入口
 =ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、場所:法隆寺宝物館1階エントランス
 =ボランティアによる九条館茶会、集合場所:本館1階エントランス
(参加費500円、先着30名、開始1時間前に本館1階で整理券配布)
 =ボランティアによる応挙館茶会、集合場所:本館1階エントランス
(参加費500円、先着30名、開始1時間前に本館1階で整理券配布)
 =ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所:本館1階エントランス
(先着25名、開始1時間前に本館1階で整理券配布。庭園開放中、茶室は外観のみ御案内します)

1 THU	14:00 14:30
2 FRI	
3 SAT	講演会「四国の初期古墳と大和」13:30 平成館大講堂*3 平松英子&鈴木大介 デュオ・コンサート*5 13:30 14:00 14:30
4 SUN	加藤知子 ヴァイオリン・リサイタル*5 14:00 14:30 15:30「如水宗淵筆『叭々鳥・鶴鶴図』について—墨の濃淡と余白の美—」
5 MON	休館日
6 TUE	列品解説「表慶館」14:00 表慶館エントランス
7 WED	「発掘へんろ」展示解説 14:00 平成館大講堂*3 14:00 14:30 14:00 15:30「華嚴五十五所絵巻」について」
8 THU	14:00 14:00 14:30 15:30「如水宗淵筆『叭々鳥・鶴鶴図』について—墨の濃淡と余白の美—」
9 FRI	14:30 15:00
10 SAT	春の庭園開放 14:00 14:30 15:00 15:30「華嚴五十五所絵巻」について」
11 SUN	春のモーツァルト*6 14:00 14:30 15:30「如水宗淵筆『叭々鳥・鶴鶴図』について—墨の濃淡と余白の美—」
12 MON	休館日
13 TUE	列品解説「小龍景光について」14:00 本館13室
14 WED	14:30 15:30「華嚴五十五所絵巻」について」
15 THU	14:00 14:30 15:30「如水宗淵筆『叭々鳥・鶴鶴図』について—墨の濃淡と余白の美—」
16 FRI	15:00
17 SAT	月例講演会「邪馬台国問題の現状—考古学から見た古代九州と畿内の文化」13:30 平成館大講堂 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30「華嚴五十五所絵巻」について」
18 SUN	マーオリ—楽園の神々— 最終日 12:30, 14:00 14:00 14:30 15:30「如水宗淵筆『叭々鳥・鶴鶴図』について—墨の濃淡と余白の美—」
19 MON	休館日
20 TUE	レオナルド・ダ・ヴィンチ—天才の実像
21 WED	時間延長(18:00まで) 記念講演会「レオナルドの精神(仮)」13:30 平成館大講堂*7 14:00 14:30 14:00
22 THU	14:00 14:30
23 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 15:00
24 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
25 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:00 14:30
26 MON	休館日
27 TUE	列品解説「眼の偶像」東洋館第3室
28 WED	14:00 14:30
29 THU	14:00 14:30
30 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
31 SAT	時間延長(18:00まで) 松岡みやび ハープ・コンサート*5 14:00 14:30 15:00

4/15まで 6/17まで

- =ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所:本館1階エントランス
 =東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク、集合場所:本館1階エントランス
*1事前申し込み制、詳細は当館ホームページをご覧ください
*2は無料イベントです、詳細は本誌2ページをご覧ください
*3詳細は前号8ページをご覧ください
*4詳細は本誌15ページをご覧ください
*5は有料イベントです、詳細は本誌14ページをご覧ください
*6は無料イベントです、詳細は本誌14ページをご覧ください
*7事前申し込み制、詳細は本誌5ページをご覧ください
*上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
*屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。